

中之島4丁目における 未来医療国際拠点基本計画（素案）

大阪府

中之島4丁目における再生医療国際拠点の形成に向けたこれまでの検討状況

これまでの検討状況

●中之島4丁目再生医療国際拠点検討協議会の設置（H28.11）

・中之島4丁目における再生医療国際拠点の実現に向け、産学官が連携し検討を実施するとともに、国等へ提案・要望することを目的として設置

＜構成員＞ 大阪府、大阪市、大阪商工会議所、関西経済同友会、関西経済連合会

＜ウザバー＞ 大阪大学、日本再生医療学会

・H29.3 「中之島4丁目再生医療国際拠点」基本方針（案）を策定

⇒今年度、基本方針（案）をもとに具体的な施設計画や事業・運営スキーム、採算性を含めた基本計画（案）を策定していく

<「中之島4丁目再生医療国際拠点」基本方針（案）>

現状と課題

- 再生医療関係の法規制により、日本が世界より1歩遅れ
- 理研・京大・慶大といった世界的な研究機関が実証的・応用的な研究を展開
- 一方で、国際競争に勝ち抜くため、研究段階から実用化・産業化への実現をより加速することが大きな課題
- また、臨床研究においてアカデミアには様々な制約があり、海外からのグローバルな需要に対応できない。再生医療分野における国際競争を果敢とすれば、国内外の患者を適切な病院に振り分けるための拠点を創設することが必要不可欠

<コンセプト>

「再生医療のヒトへの応用から実用化、グローバル展開まで一貫して産業化を推進する拠点」

①再生医療のヒトへの応用の実現 ②産業化を推進 ③再生医療による医療貢献の実現

→世界に類のない再生医療の国際拠点を形成

中之島に拠点を設置する意義

- 行政・経済の中核機能や文化・学術施設が密集する良好な都市環境を有するコア
- 交通アクセスが良好であり、さらに、水に囲まれた景観機能が享受できる、空港へのアクセスも1期計画で実現
- 関西のイノベーションのハブ機能を担い、「ゆたか」として、進捗しやすいエリア
- 関西を以て国内外の研究機関・拠点とのネットワークがやすく、最適な事業環境を呼び込める

拠点到るべき機能

- 再生医療国際拠点は、核となる「再生医療国際センター（仮称）」と関連する機能により構成

1. 再生医療国際センター

臨床研究 専用病床	臨床研究専用病床（30～100床程度） 患者を適宜に病棟に振り分けるバリエーション	データ収集、 管理、解析	再生医療のデータ解析により、適切な検査・ 処置を、有効な生命医療を実現 （企業にも提供）
トランスラトリー サイエンス	安全性、有効性の評価の標準・基準 づくり	人材育成	アカデミアと企業が協働して、再生医療に 必要な人材育成（特にOJT）
細胞バンク	再生医療の原料となるPS細胞等を ストック	社学連携 （共同）	企業のみならず、市民、事業者と連携・ 協働
産学連携 （共同）	企業との共同研究を行うコア	→臨床研究から実用化・産業化まで一貫して進める 世界に類のない国際的な拠点	

2. 関連する機能

※再生医療国際センターとの連携を重視

病院	企業・団体等との 再生医療関連施設 など	学研連携による 医師人材育成の拠点	再生医療関連クリニック、 研究開発施設・国際センター など
----	-------------------------	----------------------	----------------------------------

家族運営体制

- ハーフ（建物主体）とソフ（再生医療国際センター（仮称））の運営を分ける。
- ハーフの設置・運営は、例えば、民間デベロッパー等を中心としたSPCなどを想定。
- ソフの運営は、再生医療国際センター（仮称）を担う運営法人を想定。 ※法人形態は要検討
- センターから、臨床研究専用病床以外の施設種別は運営法人が医療法人等と連携し、設置・運営することを想定。

施設イメージ

文字共有・産学共有・アート拠点
約4,500㎡

再生医療国際拠点候補地
約2,500㎡

合計 約7,000㎡（大阪市有地）

※隣接する民間所有地については、国内外からの研究者・企業等関係者からの滞在滞在料軽減施設など、市町村一役及び民間事業者が主体となる

建物所有：SPCなど

＜病院＞ 運営者：医療法人等 拠点の管理・運営	＜再生医療国際センター（仮称）＞ 運営者：SPC運営法人、 レディ・デベロッパー、民間ベンチャー	【国の支援】 例）AMEDからの支援 国家戦略特区による病床規制の特例 など
＜関連施設＞ 再生医療関連クリニック、 最先端の検査・治療センターなど	＜関連施設＞ 再生医療関連オフィス、 医療人材育成施設 など	【地方公共団体の支援】 例）成長特区規制の適用 など

※イメージであり、今後の検討状況によって変わる可能性がある。

スケジュール

※想定であり、今後の検討状況によって変わる可能性がある。

2017.3	2017年度	2018.3	2018年度	2021年度
基本方針（案）策定	具体化の検討 ・施設計画 ・事業スキーム ・運営スキーム 等	基本計画（案）作成	基本計画（案）決定	施設整備工事
				施設オープン

1

これまで、再生医療国際拠点の形成を目指し、検討を進める中、一方で日々新たな医療技術が進展していることを踏まえ、次代を見据えた拠点形成が必要

「再生医療国際拠点」から「未来医療国際拠点」へ

＜未来医療国際拠点＞

- 再生医療をベースに、ゲノム医療や人工知能、IoTの活用等、今後の医療技術の進歩に即応した最先端の「未来医療」の産業化を推進
- 難治性疾患に苦しむ国内外の患者への「未来医療」の提供により、国際貢献を推進

※本拠点における「未来医療」の定義

医療に対するニーズの移り変わりや科学技術の革新等、医療を取り巻く環境変化に常に即応しながら、その次の時代を実現すべき新たな医療のこと

未来医療国際拠点構想

全国トップレベルの大学・研究機関（アカデミア）が先進的な研究を展開する関西・大阪において、我が国が世界をリードする環境を有する再生医療をベースに、品質を確保したデータによる信頼性の高い情報・支援基盤を形成することにより、オールジャパン体制での未来医療技術の産業化とその提供による国際貢献を推進

未来医療の開発



- ◎ 企業とアカデミアと医療機関が三位一体となり中之島でオープンイノベーションを実現
- ◎ 企業に対する再生医療への参入支援
- ◎ 国際的な最先端研究プロジェクトの展開
- ◎ 製品化に向けた審査等の基準の確立
- ◎ 高品質なビッグデータの形成とゲノム医療・先制医療への応用
- ◎ 臨床研究及び治験の推進

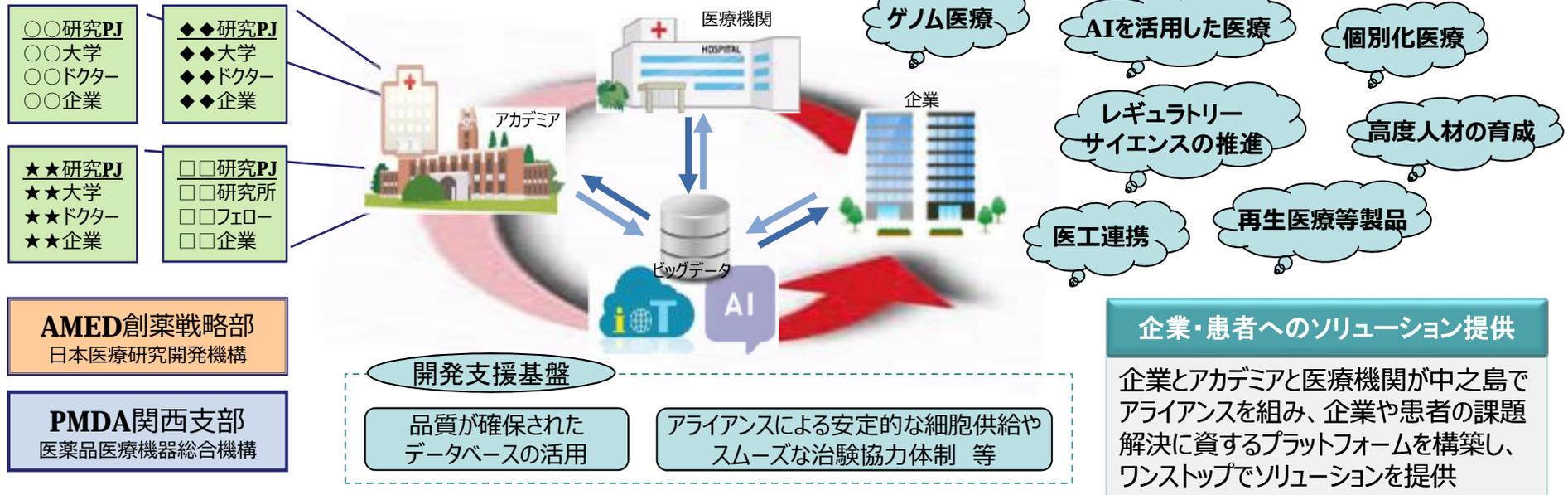
実用化
フィードバック

未来医療の推進

- ◎ 開発された最先端医療の実践
- ◎ 最先端医療のインバウンド・アウトバウンドの推進による国際貢献
- ◎ 開発製品の海外展開
- ◎ 最先端検診・予測診断
- ◎ 高度専門人材の育成

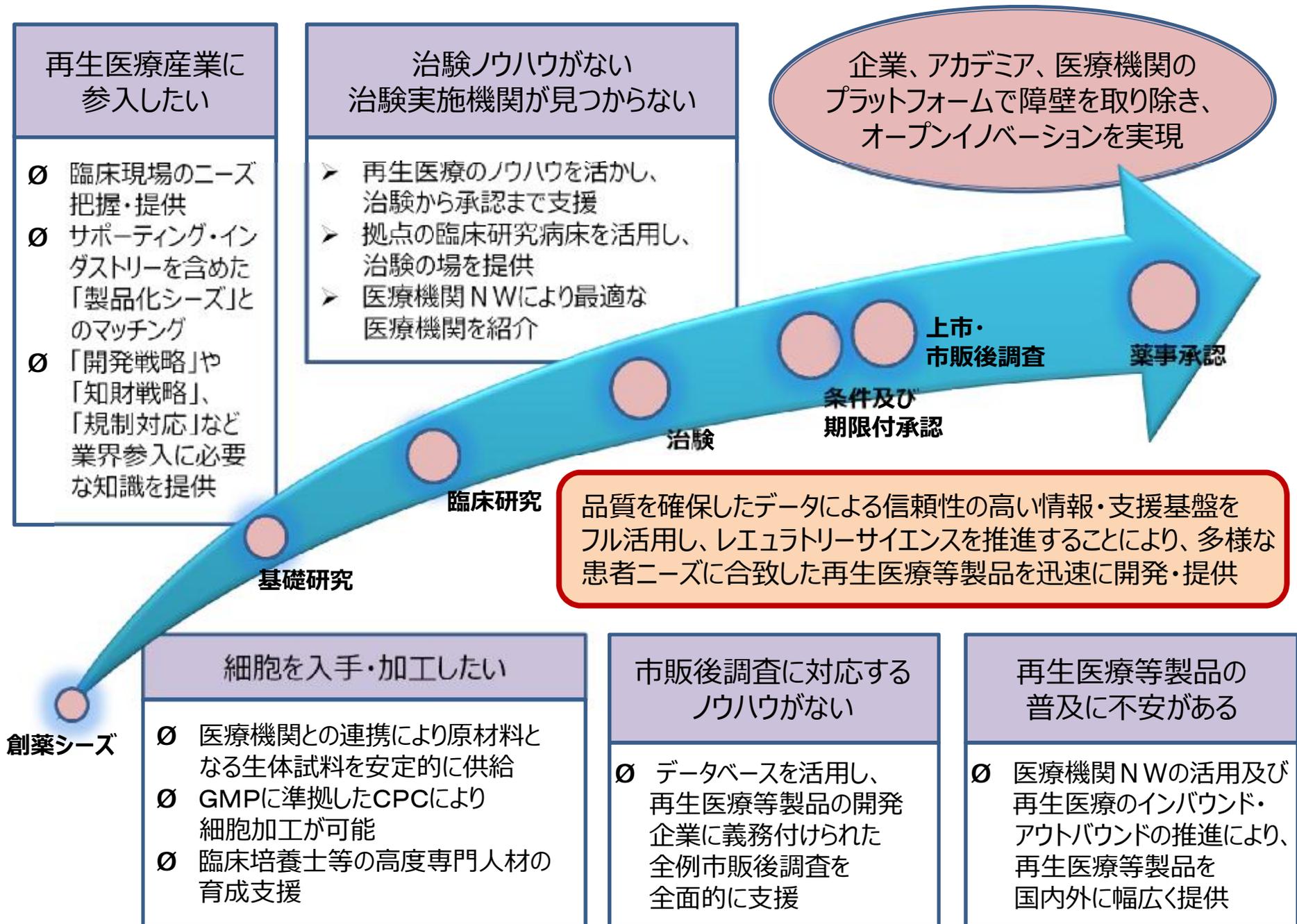


なにわ筋線の開業により中之島と関西空港・新大阪が直結し、国内外から人が集まりやすいアクセスの良さ

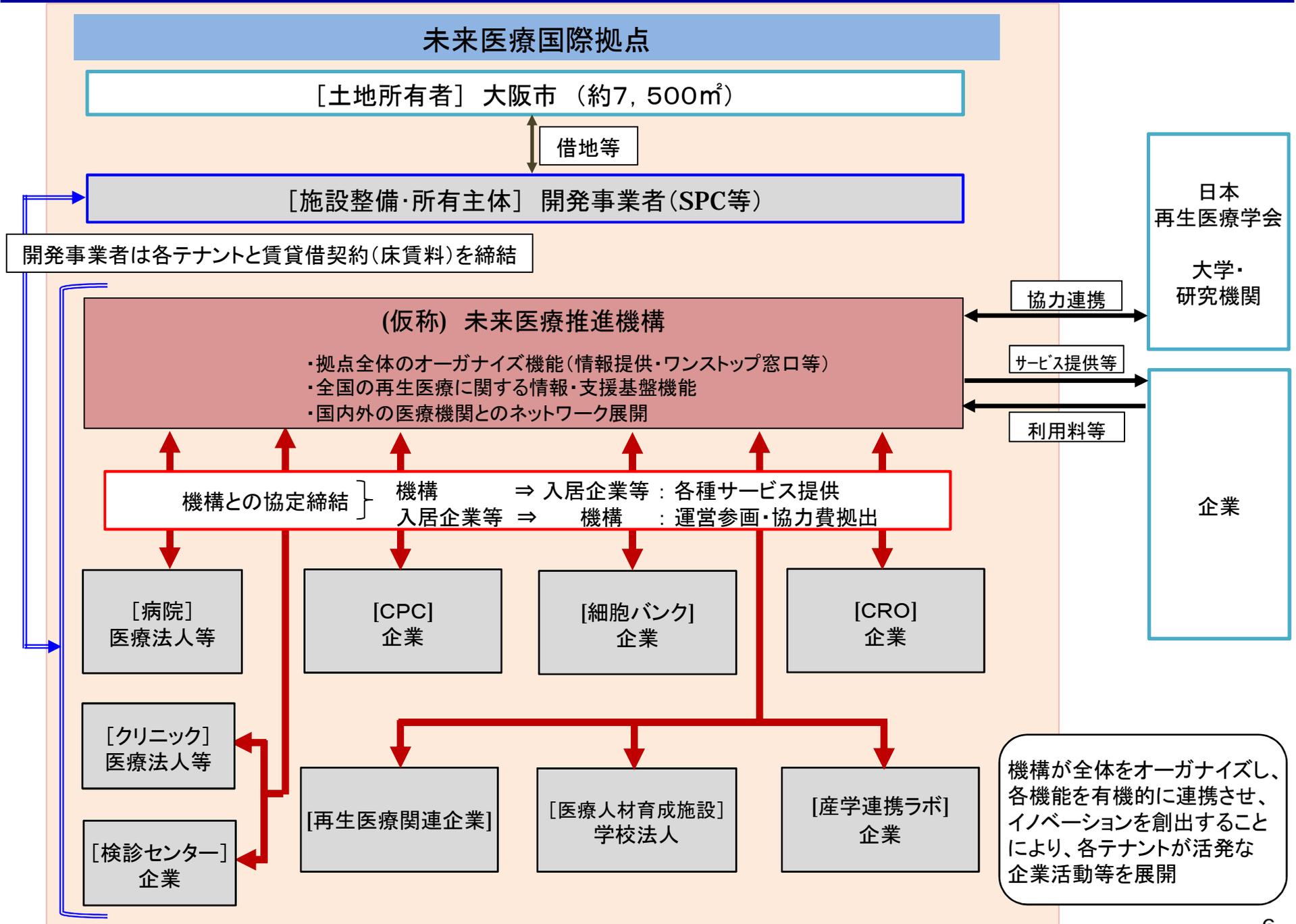


未来医療の臨床研究から実用化・産業化までを一貫して進める世界に開かれた国際的な拠点

未来医療国際拠点～再生医療ソリューション～



未来医療国際拠点 ~運営スキーム~



スケジュール

※想定であり、今後の検討状況によって変わる可能性がある。

2017.3

基本方針（案）策定

具体化の検討

- ・施設計画（規模・配置等）
- ・事業スキーム
- ・運営スキーム 等

2017.7

基本計画（素案）作成

2018.3

基本計画（案）策定

2018 年度

基本設計・実施設計

施設整備工事

2021 年度

施設オープン

